

[021]雅俗表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/7183526>

出版情報：雅俗. 21, 2022-07-15. 雅俗の会
バージョン：
権利関係：

■同人一覧

天野 聡一	飯倉 洋一	池澤 一郎
磯部 敦	坂坂 耀子	井上 敏幸
入口 敦志	岩井 眞實	位田 絵美
王 自強	大久保順子	大島 明秀
大庭 卓也	岡田万里子	尾崎 千佳
樫澤 葉子	柏崎 順子	勝又 基
加藤 弓枝	神永 暁	亀井 森
川平 敏文	神作 研一	菊池 庸介
ロバートキャンベル		吉良 史明
工藤いづみ	工藤 俊玄	久保田啓一
琴 榮辰	合山林太郎	河野 理菜
塩村 耕	白石 良夫	白瀬 浩司
進藤 康子	勢田 道生	園田 豊
高杉 志緒	高橋 昌彦	高山 大毅
田中 道雄	田邊菜穂子	陳 嘉励
陳 笑薇	中森 康之	中山 成一
西浦 和稔	西田 耕三	丹羽 謙治
沼尻 利通	服部 仁	花田富二夫
浜田 泰彦	伴野 英一	菱岡 憲司
平岡 隆二	平山 聖悟	廣瀬千紗子
藤沢 毅	古相 正美	牧野 宏子
松村 美奈	溝田 直己	三ツ松 誠
宮崎 修多	村上 義明	村田 裕司
盛田 帝子	安永 美恵	柳沢 昌紀
矢野 準	山田 洋嗣	吉田 宰
米谷 隆史	若木 太一	脇山 真衣

(五十音順)

■後記

本号は、昨年末に開催したオンライン・シンポジウム「雅俗論のゆくえ」特集を巻頭に据え、復刊十周年記念号とした。ご寄稿くださった皆様、とりわけ同人外の深沢氏・小林氏には、心より感謝申し上げる。宗因と南畝という、雅俗を論じる上での最重要人物が取り上げられたことで、企画の屋台骨が整った。▼シンポジウムには八十名を超える方々が参加してくださった。普段の四倍以上である。オンラインの強みを実感したことであった。一方、本年五月の研究会は、二年ぶりに対面で実施。通常の研究会なので人数は旧に復したが、対面ならではの「雑味」の豊かさには、やはりなんともいえぬ魅力があることも実感した。▼以下、例のごとく本誌初登場の方を中心に紹介する。「この三冊」は高橋氏。面白路線か真面目路線かは本人に委ねた。最後の『更級日記』は意外で、氏らしいヒネリのきいた切り口。「論考」の高松氏は、ご家蔵の新出資料、秋成の『毎月集』完本を惜しみなくご紹介いただいた。高山氏は、徂徠学派の〈存在感〉を改めて指摘する。▼「スポットライト」は、先ごろ日本近世文学学会賞を受賞された大山氏。近世初期文壇における重要人物、後陽成院の詩歌をめぐる営為について論じる。また初登場ではないが、「名著巡礼」は山本氏。中村真一郎のように、古典を魅力的に語れる人が今どれくらいいるだろう。そして「私の研究履歴」は廣瀬氏。世阿弥から歌舞伎へ。前々号の大谷氏といい、前号の藤原氏といい、近世文学研究者にはわりと「転向生」が多い気がしてきた。▼最後に、本会とは別組織の活動であるが、中野三敏先生の追悼文集を企画中で、本年十一月ごろに発刊予定である。雅俗の会で一定部数を買ひ上げ、同人の皆様へは一部進呈いたします。乞御期待。(川平)

雅俗 第二十二号

令和四年七月十五日 発行

■編集委員会

高橋昌彦 川平敏文 亀井 森
菊池庸介 菱岡憲司 天野聡一

■発行

雅俗の会
(事務局)

〒八一九一〇三九五
福岡市西区元岡七四四
イースト一号館

九州大学文学部 川平研究室内
電話 092-802-5052

e-mail: gazoku2@gmail.com

■印刷所

城島印刷株式会社

〒八一〇一〇〇一二
福岡市中央区白金二一九一六